

## 咳喘息患者、アトピー咳嗽患者および健常人におけるメサコリン誘発咳嗽の検討(第2報)

金沢大学附属病院呼吸器内科 大倉徳幸、藤村政樹、徳田麗、片山伸幸

金沢大学附属病院検査部 中出祐介

加登病院 阿保未来

**【目的】**われわれは、典型的喘息患者では気道収縮に対する咳嗽反応が損なわれていることを報告した。咳喘息患者、アトピー咳嗽患者および健常人におけるメサコリン(Mch)吸入による気管支平滑筋収縮と誘発咳嗽について検討した。

**【対象と方法】**咳喘息患者(CVA) 13名、アトピー咳嗽患者(AC) 11名、および健常成人(NC) 20名を対象とした。弱い気道収縮および強い気道収縮を検出するため、部分および全フローボリューム曲線よりFEV<sub>1</sub>、MEF<sub>40</sub>、PEF<sub>40</sub>を測定した。MEF<sub>40</sub>、PEF<sub>40</sub>とはそれぞれ40%努力肺活量位での全フローボリューム曲線(MEF)と部分フローボリューム曲線(PEF)上の最大呼気流量(L/sec)である。Mch吸入負荷は2分間安静換気法で行い、弱い気道収縮としてPEF<sub>40</sub>が35%減少した時のMch濃度(PC35-PEF<sub>40</sub>)および、強い気道収縮としてFEV<sub>1</sub>が20%減少した時のMch濃度(PC20-FEV<sub>1</sub>)の吸入中および吸入後30分間の咳嗽数を記録した。

**【結果】**NC, CVA, AC群のPC35-PEF<sub>40</sub>の幾何平均値は、それぞれ6.1, 1.3, 5.6 mg/mlであった。NC, CVA, AC群のPC20-FEV<sub>1</sub>の幾何平均値はそれぞれ54.6, 6.3, 59.3 mg/mlであった。NC, CVA, AC群のPC35-PEF<sub>40</sub>濃度でのMch吸入中および吸入後30分間の咳嗽数の中央値はそれぞれ0.5, 36, 2 回/32分であった。NC, CVA, AC群のPC20-FEV<sub>1</sub>濃度でのMch吸入中および吸入後30分間の咳嗽数の中央値はそれぞれ22.5, 45, 17 回/32分であった。CVA群のPC35-PEF<sub>40</sub>、PC20-FEV<sub>1</sub>でのMch誘発咳嗽数は、NCおよびAC群に比べて有意に多かった。一方、NCとAC群におけるPC35-PEF<sub>40</sub>、PC20-FEV<sub>1</sub>でのMch誘発咳嗽数は差を認めなかった。

**【結論】**咳喘息患者は気道収縮に対する咳嗽反応が亢進している。一方、アトピー咳嗽患者では気道収縮に対する咳嗽反応は健常者と変わらない。